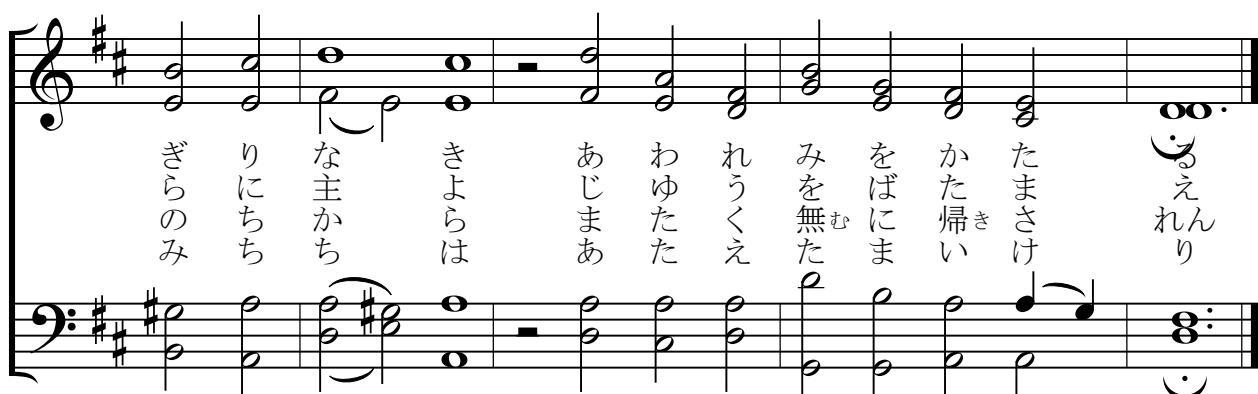


1. シ主主主
2. オよはの
3. ンちてみ
4. をかきく
続^すらをに
べにこは
たみとき
もつごよ
うるとき
おみほ義^ぎ

おおころに
いとぼて
なばしみ
るにえち
かよたあ
みりもふ
にてうる
わあな主
れくれの
らまのた
よの矢^やか
ろちはき

こかまみ
びらとく
もををら
てばばは
さうかと
んちなこ
びくらし
をだずえ
さきつに
さたらつ
げまぬづ

んえくく
主^ゆになへ
ようがい
なわつわ
がとると
くいぎよ
ちげのろ
びんひこ
るもかび
はてりに
いし揺^ゆみ



また、私は大群衆の声、大水の音、激しい雷鳴のようなものが、
こう言うのを聞いた。「ハレルヤ。万物の支配者である、われ
らの神である主は王となられた。私たちは喜び楽しみ、神をほ
めたたえよう。小羊の婚姻の時が来て、花嫁はその用意がで
きたのだから。
黙示 21:6, 7

5

主よながみ衣は ^{ころも} 栄光にみつる→
^{なないろ} 七色にかがやく ^{つゆ} 露よりも清し。
主よなれはときわに
主の主にましたもう→
讃美と栄光に ^{おう} かがやく王なり。

6

主よなが花嫁は ^{はなよめ} いともうるわしき
^み 衣に身 ^{かざ} を飾り ^{みぎ} なが右に立てり。
^{かた} かく ^き 語るを聞かん：
^{むすめ} 「いとしき娘よ
^{いえ} なれの父の家の ^{わす} すべてを忘れよ」。

7

花嫁の衣は ^ぎ とこしえの義なる
^{きん} 金を織りこまれぬ。人はさいわいと
^{かんき} 歓喜にみちあふれ
^{きゅうでん} 宮殿のうちに
花嫁をみちびき ^{こんえん} 婚宴を祝す。

8

み父にゆだねられ ^も 主は子らを持てり
^{したが} 子らは主に従い ^{せかい} 世界に ^い 出で ^ゆ 行く。
^{たみ} すべての民は主を
^{した} 慕いてよろこび
讃美はとこしえに ^{ささ} 主に捧げらるる。